

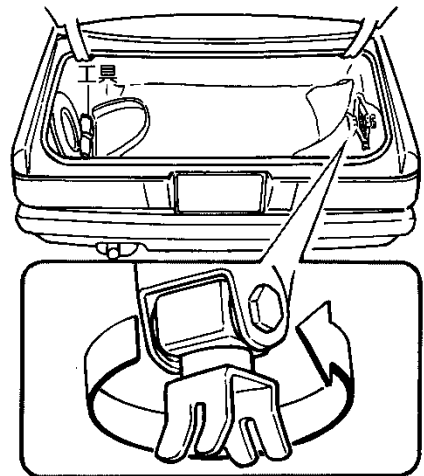
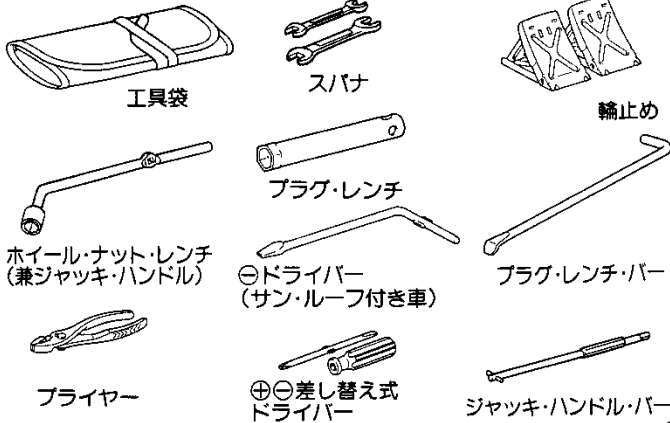
工具とジャッキ……………93
 バックしたときは……………94
 万一のときの処置……………98
 こんな故障の応急処置は……………100

工具とジャッキ

それぞれの格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。

■工具

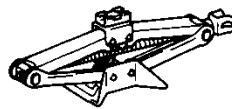
工具はスペア・タイヤの横に格納されています。



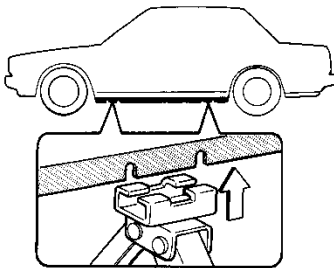
■ジャッキ

トランク右のカバーの下に格納されています。

上図のように回すと取り出せます。

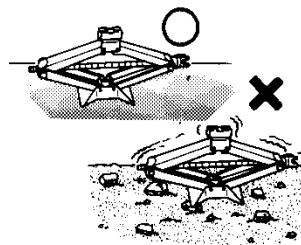


▶ジャッキをセットする位置

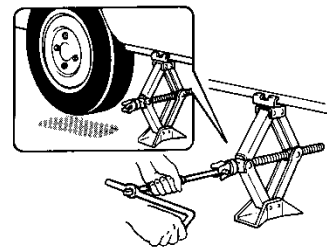


▶ジャッキのかけ方

1. ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。



3. ジャッキが確実にジャッキ・セット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ・ハンドルおよびジャッキ・ハンドル・バーを使用して、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキ・アップします。



人や荷物を車からおろしてください。

ちょっと一言

2. ジャッキを手で回して、ジャッキ・セット位置まで上げます。



注意!

ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。

万一のときの処置

パンクしたときは——①スペア・タイヤ

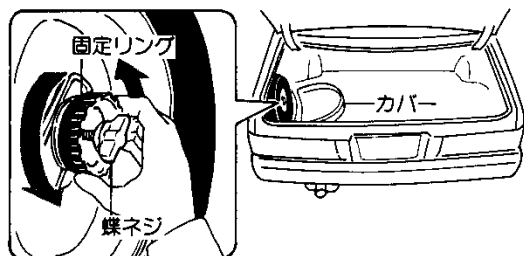


ちよっと一言

- 1.作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
- 2.パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早めにパンク修理してください。

■格納場所

トランク左側に格納されています。



▶取り出し方

- 1.カバーをはずします。
- 2.固定リングを左に回して取り出します。

▶取りつけ方

タイヤを格納し、固定リングを右に回して固定します。



ちよっと一言

標準タイヤを取りつける場合は、あらかじめ蝶ネジを右に回してボルトをのばしておいてください。

■応急用タイヤ

タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。

標準タイヤ



応急用タイヤ



※応急用タイヤは図のように標準タイヤと異なり専用タイヤです。



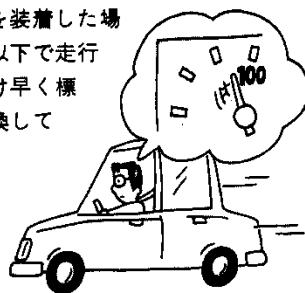
ちよっと一言

この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできていますが走行上支障はありません。ご使用になる場合は、右の注意事項を必ずお守りください。



注意!

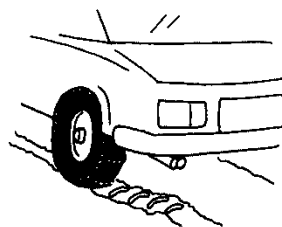
- 1.応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。
空気圧：4.2kg/cm²(冷間時)
- 2.応急用タイヤを装着した場合は、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。



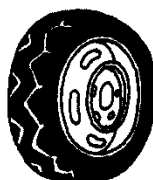
- 3.雪道、凍結路では後輪に応急用タイヤを使用しないでください。(後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてください。)



- 4.応急用タイヤにタイヤ・チェーンを装着しないでください。後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤ・チェーンを装着してください。



- 5.応急用タイヤを装着した場合、タイヤの直径が小さいため、車高が少し低くなります。突起物などをのりこえるときは標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないよう注意してください。
- 6.この応急用タイヤとホイールはすべてマークⅡの専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたりマークⅡ以外の車に使用しないでください。

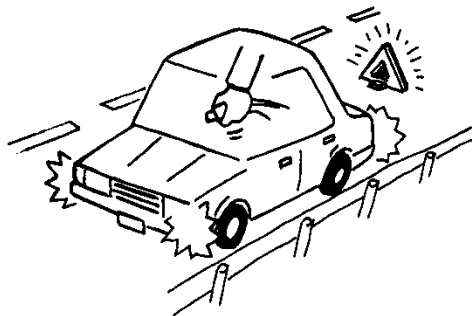


マークⅡ
専用

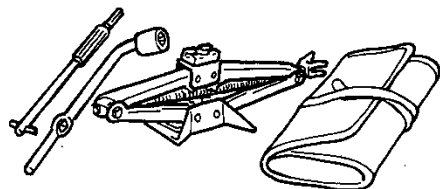
パンクしたときは——②タイヤ交換

■準備

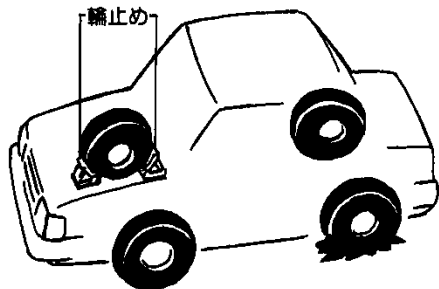
- 1.交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
- 2.非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。



- 3.パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。
- 4.工具やジャッキを取り出します。



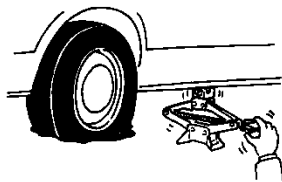
- 5.パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤの前後に輪止め(搭載工具に含まれています)をします。



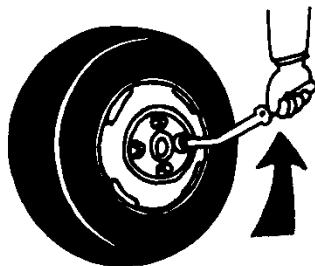
- 6.スペア・タイヤを取り出します。⇨94ページの「パンクしたときは——①スペア・タイヤ」を参照してください。
- 7.ホイール・キャップをはずします。
※樹脂ホイール・キャップ装着車は97ページを参照してください。

■ジャッキ・アップ

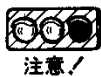
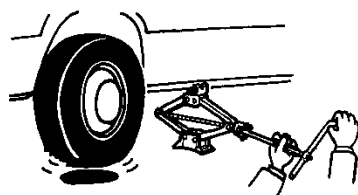
- 1.ジャッキをセットします。⇨93ページの「ジャッキ」を参照してください。



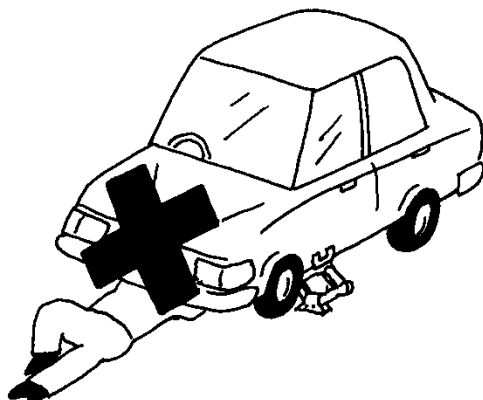
- 2.ホイール・ナット・レンチでナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



- 3.車を、タイヤと地面が少し離れるまでジャッキ・アップします。



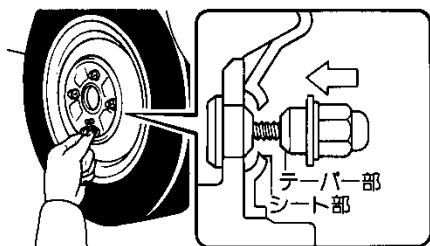
ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると大変危険です。



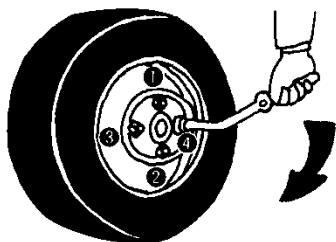
万一のときの処置

■タイヤ交換

1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。
2. ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮締めします。

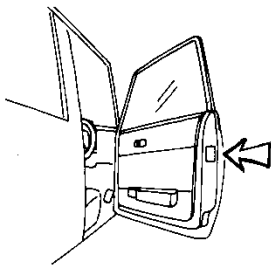


3. ジャッキを下げ、図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締めつけます。



注意！ レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。

4. ホイール・キャップ付き車は、タイヤのバルブ（空気口）にホイール・キャップの穴をあわせて取りつけます。
5. 取りつけたタイヤの空気圧を確認します。（図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。）



「タイヤ空気圧」表の中に示されているタイヤ・サイズは車種またはグレードにより装着できないものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



注意！

1. 空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。
2. 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時にタイヤが疲労しバースト（破裂）するおそれがあります。チューブレス・タイヤの場合は、タイヤとリムの密着が悪くなり、空気が漏れやすくなります。

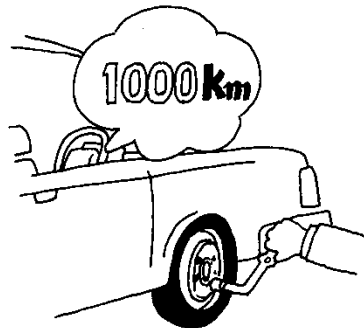
6. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

タイヤを格納するときは確実に固定してください。



ちょっと一言

1. 応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは、ただちに修理して、応急用タイヤとつけ替えてください。
2. タイヤを脱着したときは、タイヤを取りつけて、1,000km走行後、再度ホイール・ナットを締めつけてゆるみがないことを点検してください。



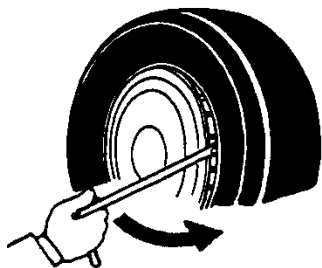
注意！

1. タイヤ交換後、走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
2. タイヤを新品と交換する場合は、トヨタ販売店で相談してください。異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、絶対にさけてください。
3. スペア・タイヤの空気圧の点検は、日頃から怠らないようにしてください。

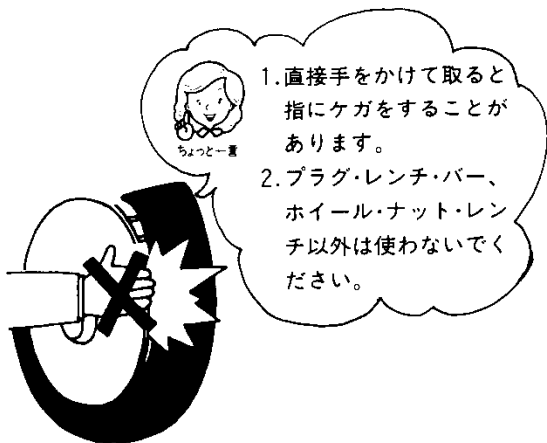
■ホイールの取り扱い方

▶樹脂ホイール・キャップの取りはずし方

1. プラグ・レンチ・バーの柄の先を差し込んでホイールとキャップの間にホイール・ナット・レンチが十分はいるまでタイヤ側にこじってください。



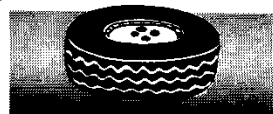
2. ホイール・ナット・レンチを差し込み、タイヤ側に強くこじれば、はずれます。



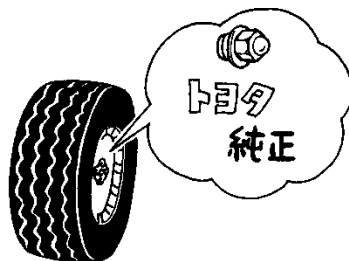
1. 直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。
2. プラグ・レンチ・バー、ホイール・ナット・レンチ以外は使わないでください。

■アルミ・ホイールの取り扱い方

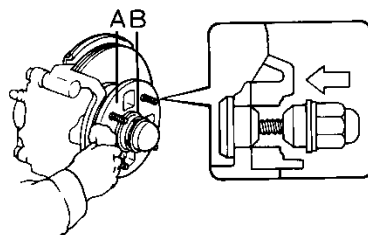
1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くときは意匠面を上にして置いてください。



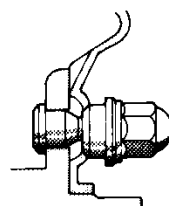
2. バランス・ウェイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。



3. 傷、変形のあるアルミ・ホイールは再使用しないでください。
4. アルミ・ホイールを再び車両に取りつけるとき、図のA、BのよごれをきれいにふいてからBの部分を実際にはめ、ホイール・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイール・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。さらに、レンチを使用して手で十分締めつけます。



5. ホイール・ナットを締めすぎないように注意してください。
6. タイヤ・チェーンを装着すると、ホイールに傷をつけるおそれがあります。
7. 応急用タイヤまたはスチール・ホイールを取りつける場合、ホイール・ナットは下図のように取り付けてください。



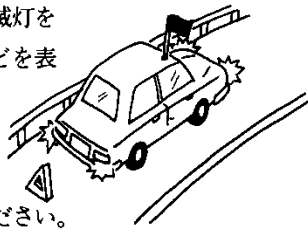
万一のときの処置

トヨタ自動車株式会社
販売部

万一のときの処置

故障したら……

1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。
2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板を置いてください。法律で義務づけられています。



非常電話を利用する場合などは、安全な場所を歩くよう心がけてください。

▶夜間、休日の修理連絡先

「整備手帳」巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。



万一のときの処置

走行中、エンジンが停止したときは…

運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

1. ブレーキ・ブースター(ブレーキ倍力装置)が作用しなくなりますので、ブレーキ・ペダルを強く踏んでください。
2. パワー・ステアリング(ハンドル操作力軽減装置)が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

走行中、車体床下に

強い衝撃を受けたときは……

ただちに車を止め、ブレーキ液の漏れや損傷を確認してください。損傷がひどい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

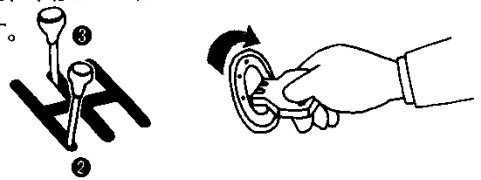


エンストして始動できなくなったときは…

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押しももらってください。

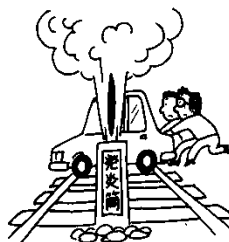


2. マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車はチェンジ・レバーの位置をセカンドまたはサードにいい、クラッチを踏まずにエンジン・スイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。また、平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



オートマチック・トランスミッション車はエンジン・スイッチで車を動かすことができません。

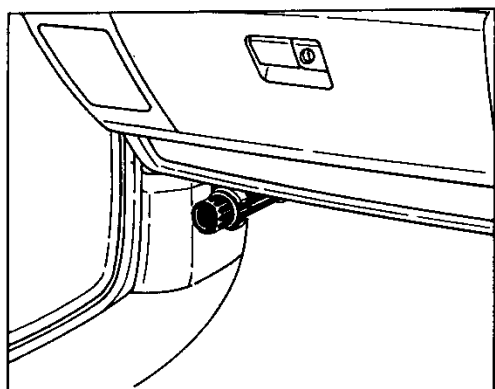
3. 踏切内で動かなくなり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



電車が来そうになったり、緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。○次ページ参照。

発炎筒

高速道路や踏切内などで、緊急を要するときに使用します。



1. グローブ・ボックス左下部に備えつけてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。
3. 本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でトヨタ純正ハイフレヤ（発炎筒）をお求めください。



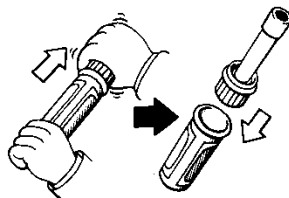
注意！



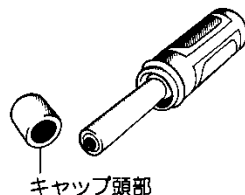
1. お子さまにさわらせないでください。

▶使い方

1. 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2. キャップ頭部のすり葉でこすると着火します。



キャップ頭部

2. 非常用信号としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどの危険があります。
4. 発炎時間は約5分ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。
5. ガソリンなど可燃物の近くでは火災をまねくおそれがありますので使用をさけてください。

この図は、トヨタ純正ハイフレヤ（発炎筒）の使用方法を示しています。必ず取扱説明書をお読みください。

こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

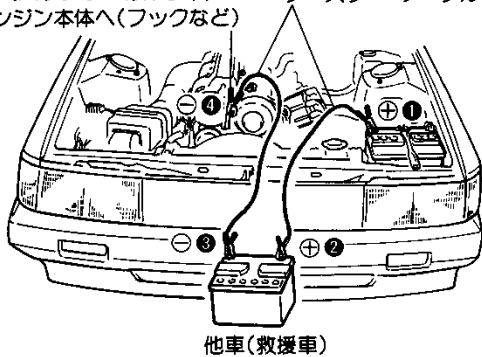
ブースター・ケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。



救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1. ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。⊕⊖を間違えないようご注意ください。

自車(バッテリーあがり車) ブースター・ケーブル
エンジン本体へ(フックなど)



1. ①の接続は必ず自車(バッテリーあがり車)の⊕端子にしてください。
2. ②の接続はバッテリーから離れたエンジン本体にしてください。バッテリーとバッテリーを直接接続すると、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

2. 接続後、救援車のエンジン回転を少し高めにしておきます。
3. 始動のしかたは⇒33ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。
4. 自車のエンジンが始動したら、取りつけたときと逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ販売店で完全充電してください。

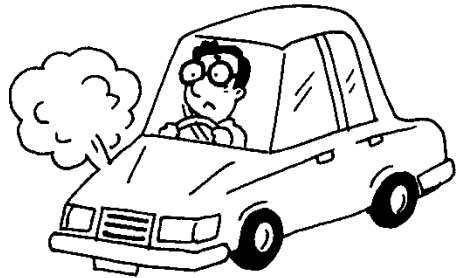


注意!

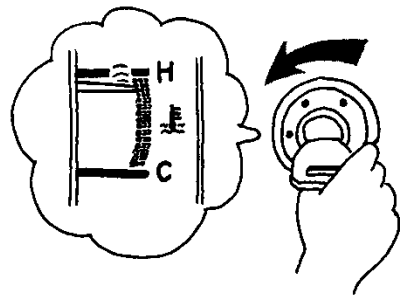
1. 絶対に押しがけによる始動はやめてください。
2. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
3. ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。

オーバーヒートの処置は……

1. 安全な場所へ車を止めてください。



2. エンジンをかけたままで、ボンネットを開け、風通しをよくします。
3. 水温計の針(または表示)が下がってきたら、エンジンを止めます。



4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部(放熱部)の著しいよごれ、ごみの付着の有無、Vベルトのゆるみを点検します。

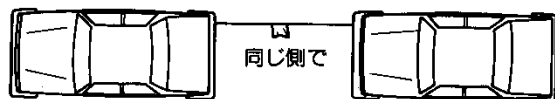
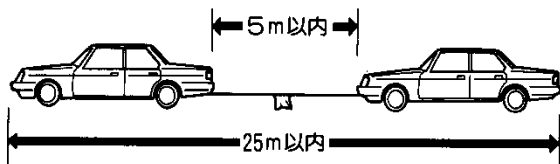


注意!

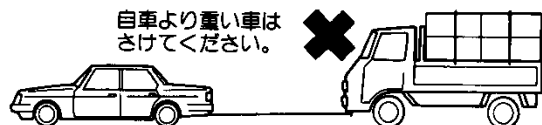
あわててラジエーター・キャップをはずすと、冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出して思わぬやけどをすることがあります。

けん引するときは……

けん引は、下図の方法を守ってください。



自車より重い車は
さけてください。

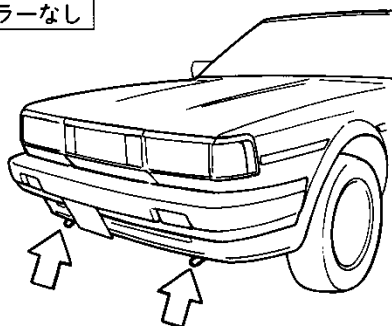


※けん引される車はけん引車の制動灯に注意して、常にロープをたるませないように気をつけてください。
また、けん引ロープには0.3メートル平方(0.3m×0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。

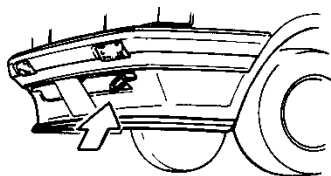
■ロープをかける位置

▶フロント側

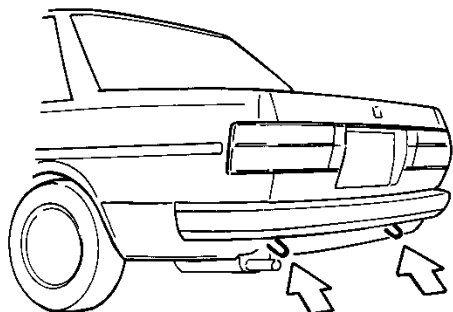
スポイラーなし



スポイラー付き



▶リヤ側



注意!

- けん引される車は、下記事項を厳守してください。
 - チェンジ・レバーを●の位置にする。
 - エンジン・スイッチをACCまたはONにする。
 - けん引される速度は30km/h以下（オートマチック・トランスミッション車のみ）
 - けん引される距離は80km以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）
- エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効が悪くなります。また、ハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してけん引してください。
- 長坂路を下るときはブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。レック一車にけん引してもらってください。
- フロントけん引フックを使用されるときはロープでボデーに傷をつけないようにしてください。
- 次の場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
 - エンジンが回っているのに車が動かない。または異常な音がる。
 - オートマチック・トランスミッション・フルードがない。

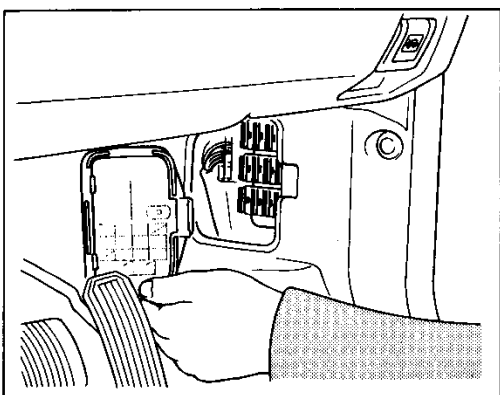
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が働かないときは、ヒューズが切れているか、サーキット・ブレーカーが電流をしゃ断している場合があります。ヒューズ・ボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておく便利です。

■ヒューズ・ボックスの位置

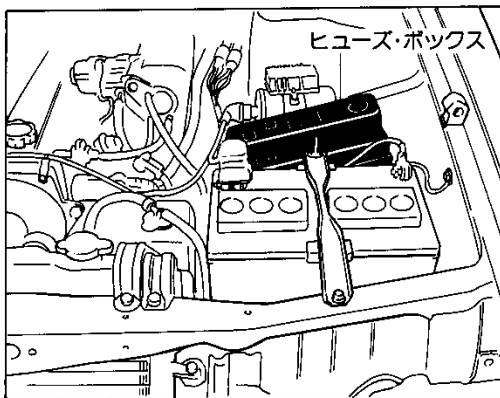
ヒューズ・ボックスは、運転席足元とエンジン・ルーム内にあります。

▶運転席足元ヒューズ・ボックス



運転席足元のヒューズ・ボックスの中には、ヒューズおよびサーキット・ブレーカーがあります。ヒューズおよびサーキット・ブレーカーの受け持っている装置はP104ページを参照してください。

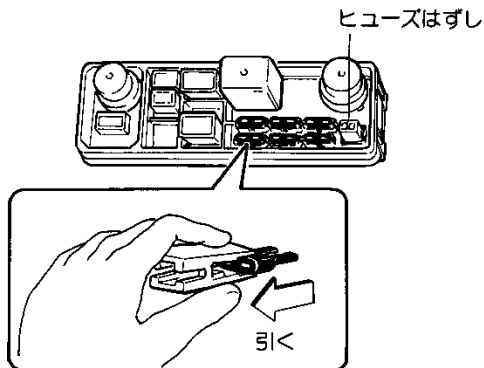
▶エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



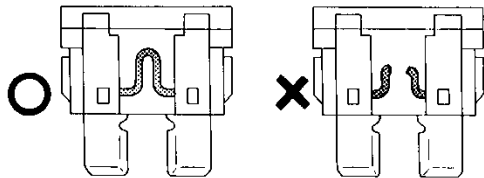
■ヒューズの交換

各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックスについています)



3. ヒューズが下図の右側のようであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。



注意!

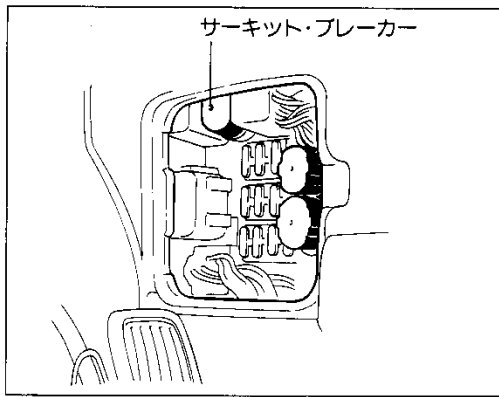
1. 取りつけてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。



ヒーター、エア・コンディショナー、パワー(電動)・シート、サン・ルーフが作動しないときはトヨタ販売店へご連絡ください。

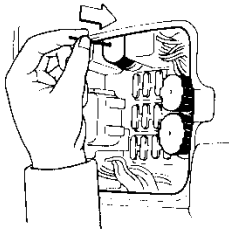
■サーキット・ブレーカー

サーキット・ブレーカーは、装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置です。



▶リヤ・ウインドウ・デフォグガー(曇り取り)、電磁式ドア・ロック、パワー(電動)・ウインドウが作動しないときは、サーキット・ブレーカーの回路がしゃ断されている場合があります。

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. サーキット・ブレーカーの穴に細い棒をカチッという音がする位置まで、軽く差し込みます。
3. これでサーキット・ブレーカーの回路が復帰します。

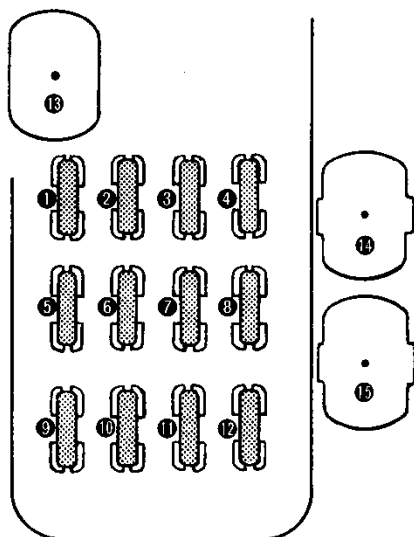


ちょっと一言

1. マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。
2. 以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキット・ブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ヒューズとサーキット・ブレーカーの受け持つ装置

■運転席足元ヒューズ・ボックス



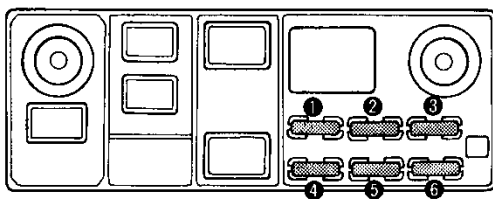
<ヒューズ>

①	ストップ・ランプ	15A	制動灯
②	フォグ・ランプ	15A	フォグ・ランプ
③	ターン	7.5A	方向指示灯
④	イグニッション	7.5A	充電警告灯, 排気コンピューター
⑤	エレクトロニクスIG	15A	オート・ドライブ, TEMS, オールタネータ
⑥	ルーム・ランプ	10A	室内灯, 時計, トランク灯, 半ドア警告灯, パーソナル・ランプ, ドア・キー照明, エンジン・キー照明
⑦	ライター	15A	シガレット・ライター
⑧	ラジオ	7.5A	ラジオ, ステレオ, 電動リモコン・ミラー
⑨	ワイパー	20A	ワイパー&ウォッシャー
⑩	テール・ランプ	15A	尾灯, 番号灯, 車輻灯, 計器照明, ラジオ照明, ヒーター照明, シガレット・ライター照明, グローブ・ボックス・ランプ, チェンジ・レバー位置表示
⑪	ミラー、ヒータ	10A	電気負荷アイドル・アップ
⑫	メーター	7.5A	警告灯類, 計器, 後退灯, オーバードライブ

<サーキット・ブレーカー>

⑬	リヤ・ウインドウ・デフォグガー(曇り取り)
⑭	電磁式ドア・ロック
⑮	パワー(電動)・ウインドウ

■エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



<ヒューズ>

①	チャージ	7.5A	充電警告灯
②	ヘッドランプ(左)	15A	ヘッドランプ(左側)
③	ヘッドランプ(右)	15A	ヘッドランプ(右側)
④	ラジオ	15A	ラジオ, ステレオ
⑤	ハザード, ホーン	15A	警告器, 非常点滅灯
⑥	E F I	15A	エンジン・コントロール・コンピューター

万一のときの処置



予備ヒューズはヒューズ・ボックスのカバーに取り付けられています。

ちよつと一言

ランプ類が点灯しないときは……



ちょっと一言

1. ランプ類が点灯しないときは、ヒューズ切れの他、ランプ自体の球切れが考えられます。
電球の交換は、右の各規格にあわせて、同容量のものにしてください。
2. ハロゲン・ランプ（ヨウ素入り電球）は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。
電球交換時に、手などがガラスに触れないように注意してください。
3. ランプ類はすべて12V用をご使用ください。

■フロント側電球

- ▶ヘッドランプ
ハロゲン…………… 60/55W
- ▶フォグ・ランプ
ハロゲン…………… 55W
- ▶車幅灯…………… 5W
- ▶フロント方向指示灯(兼非常点滅灯)…………… 23W
- ▶サイド方向指示灯(兼非常点滅灯)…………… 5W

■リヤ側電球

- ▶方向指示灯(兼非常点滅灯)…………… 23W
- ▶制動灯/尾灯…………… 21/5W
- ▶後退灯…………… 23W
- ▶番号灯…………… 10W

■室内電球

- ▶室内灯…………… 10W
- ▶パーソナル・ランプ
サン・ルーフ付き車を除く…………… 8W
サン・ルーフ付き車…………… 10W
- ▶トランク灯…………… 5W
- ▶グローブ・ボックス・ランプ…………… 1.4W